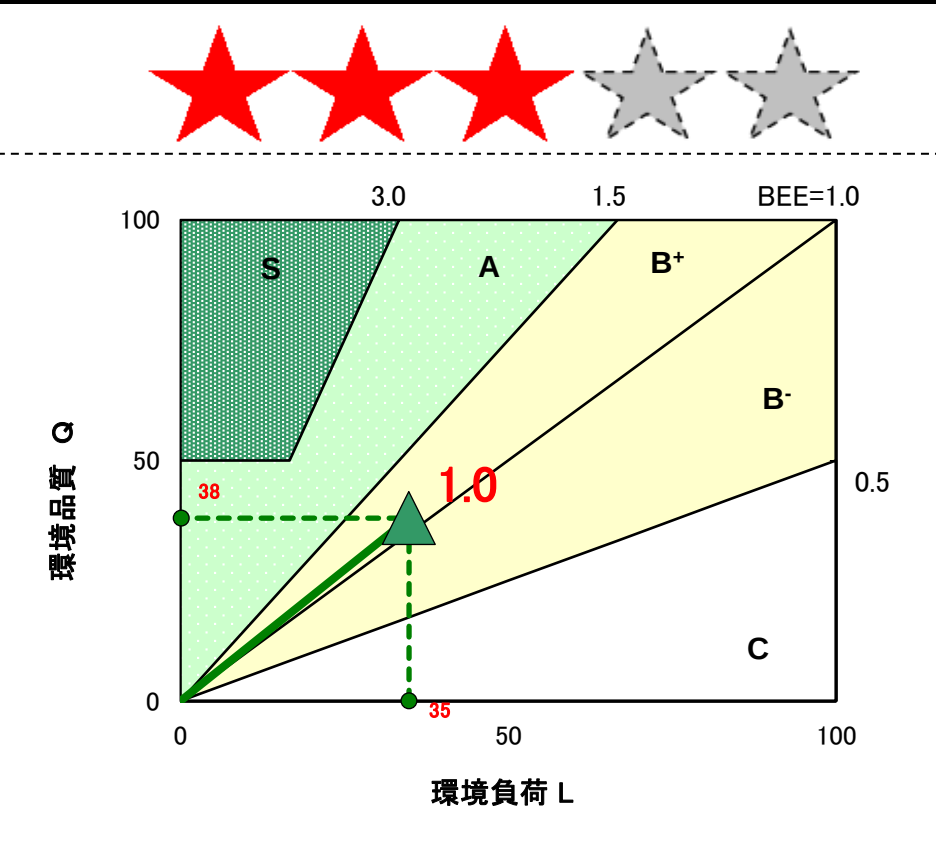


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本アイビー産業(株)新工場増築工	階数	地上2F	
建設地	熊本市北区植木町今藤字吉部原54	構造	S造	
用途地域	都市計画区域、指定なし	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年8月 竣工	評価の実施日	2019年4月3日	
敷地面積	24,223 m ²	作成者	柳田	
建築面積	7,206 m ²	確認日	2019年4月5日	
延床面積	7,241 m ²	確認者	伊東	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

74%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価			評価点
			74

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

100.0

62.5

37.5

72.0

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

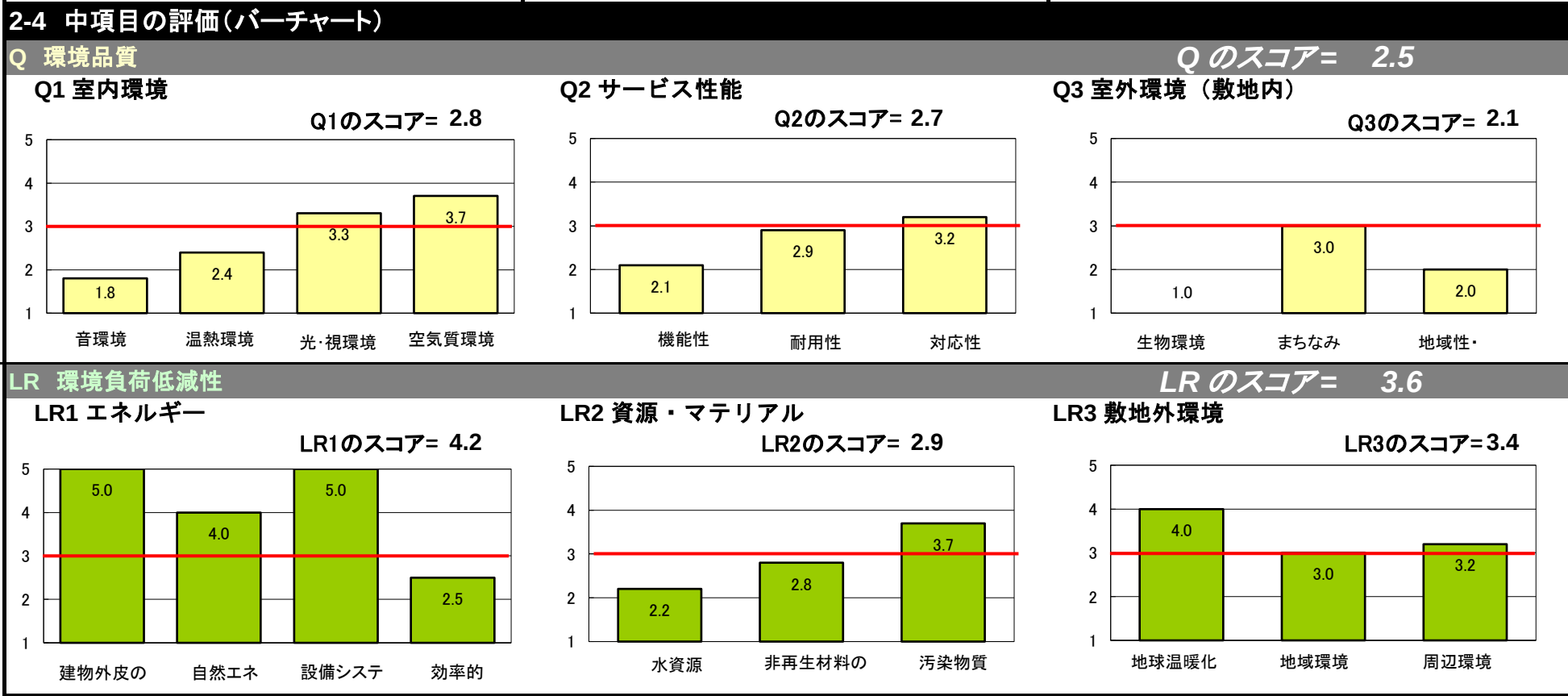
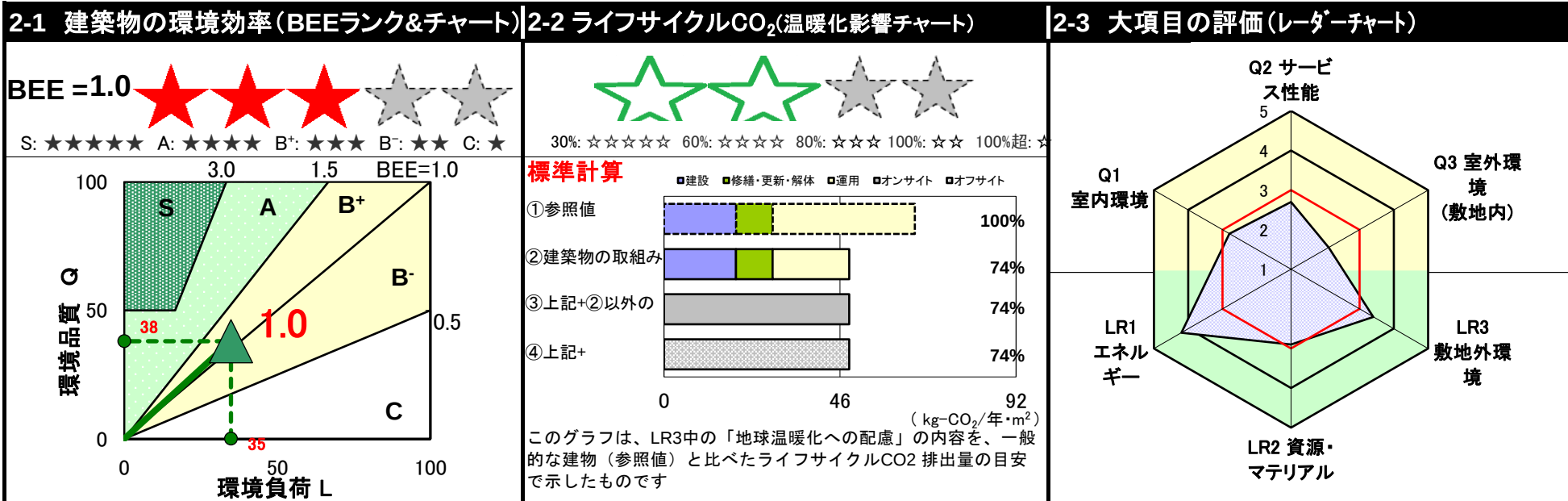
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本アイビー産業(株)新工場増築工	階数	地上2F	
建設地	熊本市北区植木町今藤字吉部原54	構造	S造	
用途地域	都市計画区域、指定なし	平均居住人員	45 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年8月 竣工	評価の実施日	2019年4月3日	
敷地面積	24,223 m ²	作成者	柳田	
建築面積	7,206 m ²	確認日	2019年4月5日	
延床面積	7,241 m ²	確認者	伊東	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
熊本アイビー産業(株)新工場増築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.5	
Q1 室内環境					0.31		-	2.8	
1 音環境				1.8	0.15	-	-	1.8	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				1.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				1.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-	2.4	
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-		
1 室温				2.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		2.5≦2.7(%) : 設計室		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		0.076>0.066 : 工務室		5.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.7	
1 機能性				2.1	0.40	-	-	2.1	
1.1 機能性・使いやすさ				1.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高 : 2.7m : 工務室・設計室		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバ鋼板 : 25年		4.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にC以上を使用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			3.8	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.05	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.78	5.0	0.01	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	トップライト	4.0	0.12	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.54	5.0	0.62	-	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水		1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能・内装材と設備が錯綜しない	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン(屋外・広告物)の取扱いの過半を満足、 広告物照明無	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路面からの圧迫感に配慮し、管理棟の正面はカーテンウォールを採用し、工場棟は建物位置をできるだけ敷地の奥へ配置した。また、周囲との景観の調和を生み出すために敷地周囲に緑地を配置した。

Q1 室内環境

F☆☆☆☆建材を使用。管理棟、工場棟共全館禁煙にして、施設内の空気質環境に配慮した。

Q2 サービス性能

階高にゆとりをもたせ、建物の自由度を高めた。設備システムのメンテナンスの計画を考慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地周囲に緑地を配置し、景観環境に配慮した。

LR1 エネルギー

一部にペアガラスを採用し、遮熱性を高めた。

LR2 資源・マテリアル

断熱材は全てノンフロンとした。

LR3 敷地外環境

適切な数の駐車スペースを計画し、出入口付近での車両の軌跡の検討を行い、出入口を数か所に分散して周囲の交通負荷軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本アイビー産業(株)新工場増築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				37.5	0.20	7.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数